

| | | |
|-------------|----|-------------------|
| 校長室だより | | 令和4年1月24日発行 |
| 共学共高 | 第 | |
| | 18 | 発行責任者 |
| | 号 | 白梅学園高等学校長 武内 彰 |

推薦入試で合格した中学生へ

1月22日(土)本校では、推薦入試を実施し、同日午後10時にインターネット上で合格発表を行った。合格した中学生へメッセージを送りたい。

合格された中学生のみなさん、おめでとうございます。これまでのご自身の努力やご家族の支えがあって合格を手に入れることができたことと思います。心よりお喜び申し上げます。

これから本校入学までに約2か月の期間がありますが、その間にどのように過ごしていただきたいか、私なりにメッセージを送らせていただきます。

まずは、中学校の授業が3月まで継続されるでしょうから、それを大切にしてください。学びは、上級学校に入るためだけにあるものではありません。みなさん自身がより善く生きるためにあるものだと考えます。そのことを踏まえながらも、現実的には高校入学後の学びへとスムーズにつなげていくことも必要だと考えます。もしも中学校3年間の学びの中で、不得手とする単元や項目があるならば、そこをもう一度自分なりに補うことをお勧めします。特に、数学はこれからキーとなる教科ですので、おさらいをしておくことが大切です。高校に入学すると、中学校までの数学を土台にして、さらに発展的な内容を学ぶこととなります。具体的には、三角関数、数列、ベクトル、微分積分など聞きなれない言葉かもしれませんが、一般的に高校生が難しいと感じたり、苦手であったりすることが比較的多い単元となります。こうした内容を理解していく土台は中学校までの数学の学びにあると言えるはずです。これまで使ってきた問題集や参考書で構いませんので、理解が十分でない単元があれば、教科書に戻って、確実に押さえておくことをお勧めします。特に、高校入学後に国立大学への進学を志望する場合は、文系・理系を問わずに、高校2年生までの数学の力が大切になってきます。苦手意識をもっている人もいるかも知れませんが、2か月あれば相当なことができるはずです。

次に、英語のリスニングやスピーキングの力を高めていくことです。ラジオ英会話を聴く、あるいは自信があれば、TEDを聴く、英語のニュース番組を聴く、といったことも選択肢の一つです。ラジオ英会話であれば、スピーキングをする場面もありますし、自信のある人は、英語のニュースを聴きながら「シャドーイング」(話し手の英語を聴きながら、少し遅

れて自分で英語を繰り返すこと) もリスニング力とスピーキング力を高めることにつながるのではないのでしょうか。最も、私は英語の専門家ではありませんので、英語の先生からアドバイスを得て、取り組んでみるのがよいでしょう。

私自身は、大学を卒業してから約 30 年間、英語を使わないで済む生活をしてきました。ところが、最後に勤めた都立高校では、海外からのお客様が頻繁に来校されました。恥ずかしながら、満身に英語を話せない私は苦労しました。中国の科学オリンピックで金メダルを取った優秀な高校生たちを前に、あるいはインド教育団の方々を前に英語で学校紹介をする、といった場面がありました。中国の高校生たちはしっかりとこちらを見て反応しながら聞いてくれますが、インドの方々はこちらのプレゼンの途中でも随所で質問をしてくるので、たいそう苦労しました。また、英国の外務大臣が来校された際には、通訳の方もおらず、一人で対応せざるを得なかったのですが、わかりやすい英語をゆっくりと話してくださったので、何とかやりとりをすることができました。むしろ、警護を担当する SP の方々の英語の方が早くて聞き取りにくかったことを覚えています。また、ニュージーランドの高校と姉妹校協定を締結するときにも流ちょうな英語を聞き取れない場面が多々ありました。「あまり英語は話せないのです。」と言う私に対して、先方の校長先生は「私だって、あなたほど日本語はできないのよ。」とおっしゃいました。この言葉に救われた思いがしました。流ちょうに話せなくても、こちらの思いや考えを伝えることの方がはるかに大切です。わかり合おうとする姿勢をもつことが大切なのだ、と自分に言い聞かせるようにしました。

みなさんはまだまだ若い。それに将来は、国籍の異なる人とチームを組んで、英語を共通言語として仕事をしていく人も今以上に増えていくことでしょう。英語の長文を読解する力もちろん大切ですが、入試のための勉強がひと段落した今は、いわゆる 4 技能を高めしていくために時間を使ってみてはいかがでしょうか。

もう一つ、時間に余裕があれば、読書をお勧めします。学校の図書館に配架された本の中から自分で読みたいと思う本を手にとってみてください。読書は気軽に自らの知見を高めたり、広げたりしてくれるものです。文学などに共感する繊細な感性は、年齢とともに薄れていきます。(少なくとも私自身はそうでした) 高校に入学すると、忙しい日々が続くことになると思います。進路が決まったこの時期に、読書に時間を割くことは比較的ハードルが低いのではないかと思います。

1月23日(日)、入学手続き書類配布日に私は受付の前に立ち、みなさん一人一人とあいさつを交わしました。きちんとあいさつができる人ばかりでした。4月にみなさんと、白梅学園というフィールドにおいて、同じ時間を共有できることを楽しみにしています。白梅での3年間は、みなさんの総合的な力を高め、人間的に大きく成長する時間となることを願ってやみません。



(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す）